令和６年度「母性看護学Ⅱの模擬患者を導入している演習」を紹介します

「母性看護学Ⅱ」は、看護学科３年生前期に履修する必修科目です。「母性看護学」では、妊婦・産婦・褥婦（産後の女性）および新生児とその家族への看護について学修します。2 年生後期の「母性看護学Ⅰ」では、妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族への必要な看護を講義形式で学修し、「母性看護学Ⅱ」では褥婦と新生児の事例を基に健康診査のシミュレーションにより看護技術の習得を演習形式で行い、６月からはじまる「発達段階別看護論実習Ⅰ（母性看護学）」の実習に備えています。この健康診査のシミュレーションでは、よりリアルな臨床場面を再現し、実践能力を培うことを目ざし、模擬患者を導入した演習を設計しています。

模擬患者の養成は、本学の地域連携推進事業として行っています。この活動では、模擬患者を募集し、模擬患者養成講座では模擬患者として学生への対応やフィードバックの方法等を説明し、模擬患者終了後にはふり返りの機会を設けています。今年度は３名の乳幼児を育てる女性が講座を受講し、模擬患者になっていただきました。

学生たちは、初めて会う模擬患者に緊張しながらも、健康診査のシミュレーションではバイタルサインを測ったり、子宮復古や乳房の観察をしながら、必要な観察項目を問診していました。シミュレーションの後は、模擬患者から「目線を合わせて、話してくれたのがよかった。」「測る前に説明して測ってくれてよかった。」等のよかった点や「専門用語は分かりにくい。」「困っていることを伝えたら、どうしたらいいか教えてほしい。」等の改善点を伝えていただき、学生たちは自分の課題を見出すことにつながっていました。学習効果を検証し、今後も模擬患者を導入したシミュレーション教育をすすめていきたいと考えています。

【担当教員：木戸久美子、植村裕子（文責）、松下有希子、十河美智子】